

〈シンポジウム：変化の中の病院図書室〉
インターネット・コンピューティング
の紹介とそのバックグラウンド

札幌医科大学医学部
解剖学第一講座 辰巴治之

The Internet、Multimedia、知的生産物の共有化などを理解するには、百聞は一見にしかず。いま注目を集めている“mosaic”というインターネットのソフトを見てもらうと一番理解しやすい。これは情報のナビゲーションソフトである。インターネットに接続されていると、コンピュータ画面の項目をマウスでクリックするだけで、全世界に分散しているマルチメディアの情報がいとも簡単に無料で手にはいる。文字、絵、音など、いろいろな価値ある情報を、ネットワーク経由で直に見たり聞いたりすることができるのである。無料で、簡単に、価値ある情報と、良いことづくめの裏には、多くの人々の努力や、今までに無い新しい技術や発想が埋め込まれている。細胞の構成要素を単に試験管に入れるだけでは、生命は生じないのと同じように、これら個々の技術や、発想がうまく噛みあって、初めてこれらの機能を実現できるのである。例えば mosaic の画面のように、ある情報からある情報が引き出されるようになっているのをハイパーテキストというが、このような機能を具体的に支えているのは、server と client に分かれているソフトであったり、専用回線であったり、知的生産活動をし、データを整理・提供してくれている人が世界のどこかにいるからである。

これらを体験してみて気づくのは、そこには知的な面白さがあるということである。Johan Huizinga の“Homo ludens”という本の中の、“遊びの精神が人類の歴史をつくった”という言葉は、蓋し名言である。この遊びの精神が世界を動かし、世の中を変えてい

くのかもしれない。これと同じように余裕をもって、コンピュータを使いたいと考えている。仕事と遊びはよく対比され、全く正反対のもののようにいわれるが、実は、究極のビジネスは遊びに近かったり、究極の遊びは仕事になったりする。

パソコンを触っていると遊んでいると思われる。それはコンピュータに対する固定観念が強過ぎるからであろう。また、コンピュータに対する理解度の違い、コンピュータの多様性にも起因するであろう。コンピュータというと、ファミコン、パソコンのテレビゲームやパソコン通信、ワープロ、データベース、統計計算、多変量解析、科学技術計算、軌道計算、エキスパートシステム、人工知能開発まで、人それぞれによって、思い浮かべる姿が異なる。ここでいえるのは、コンピュータは、知的活動をする為の道具ということで何にでも使えるということである。コンピュータを使って論文も書けるし、ラブレターだって書ける。要は使い方である。

コンピュータの発達の歴史を振り返ってみると、人類の発達史によく似ている。人間は、言葉、文字、紙、活版印刷、交通手段などを発達させることにより、進歩してきた。同じようにコンピュータは、0と1で文字を表現できるようになり、コンピュータ言語で制御でき、紙と同じようにテープ、ディスクに情報を記録でき、活版印刷よりも効率よくワープロで大量印刷でき、コンピュータ・ネットワークの発達で人類のコミュニケーションは促進され、さらなる発展の可能性が広がりつつある。従って、これらをいろいろな分野に活用しない手はない。

そこで computer literacy という言葉が出現してきた。リテラシーとは、日本の“読み書きソロバン”の“読み書き”に相当するものだが、最初、コンピュータは、ソロバンの機能を果たしていたものが、ハード、ソフトが発達するに従い、読み書きの部分にも使

えるようになってきた。それで computer literacy は、次世代の読み書きソロバン、次世代の基本的な能力といえるだろう。

生物における細胞分化、産業革命における分業と同じように、社会における専門化、細分化と同時に必要になるのが、情報伝達系である。Personal computing をやっている個人がインターネットに参加することによりコミュニケーションが促進され、上司と部下、医者と患者、情報の欲しい人と図書室で情報を提供している人の間の意志の疎通が良くなる。一見、コンピュータ特有の話のように思

われがちであるが、実は、奥が深い。人類は言葉を生み出し、コミュニケーションの手段を発達させ、進歩してきた。これは21世紀に向かって進化していくための一つのステップのように思え、病院図書室にもインターネットは必須のものになっていくだろうし、早くそうなって欲しい。

(E-mail: tatsumi@sapmed.ac.jp)

シンポジウム「継続教育・臨床研修における病院図書室の役割」(北野病院臨床病理部長、沢田真治先生)の要約は、スライド等の写真発表が多く、誌上での報告は省略させていただきました。ご了承ください。(編集部)